

第七十四回
帝國議會
貴族院

人事調停法案特別委員會議事速記録第九號

付託議案(追加)

司法保護事業法案

昭和十四年三月十八日(土曜日)午後一時
三十七分開會

○委員長(伯爵「荒芳徳君」) 只今ヨリ本委員會ヲ開催致シマス、商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ニ付テ御質疑ガアレバ御許シテ致シマス……別ニ御質疑ガナイヤウデアリマスカラ討論ニ移リタイト存ジマス……討論ハ是デ終結致シタモノト認メマシテ、本法律案ニ關シテ採決ヲ致シタイト存ジマス、本法律案ヲ可トスル諸君ノ舉手ヲ願ヒタイト存ジマス

(總員舉手)

○委員長(伯爵「荒芳徳君」) 全會一致ト認メマス、之ヲ以チマシテ本法律案ハ可決確定ヲ致シマシタ

○政府委員(倉元要「君」) 只今ハ商法ヲ引用スル條文ノ整理ニ關スル法律案ヲ御審議御議了下サイマシテ、誠ニ當局ト致シマシテハ、皆様方ノ連日ノ御骨折ニ對シマシテ深ク感謝スル次第デアリマス、有難ウゴザイマス

○委員長(伯爵「荒芳徳君」) 次ニ司法保護

事業法案ニ關シマシテ、政府當局ノ提出ノ理由並ニ御説明ヲ求メタイト存ジマス

○政府委員(倉元要「君」) 御説明申上ゲマス、司法保護事業法案提出ノ理由ニ付キマシテハ、本會議ニ於テ其ノ概要ヲ申述ベタ

ノデアリマスガ、尙少シ補足的ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、最近ニ於ケル犯罪現象ヲ見マスルニ、再犯ハ遞増ノ情勢ヲ示シテ居ルノデアリマシテ、之ヲ長期戰下ニ於ケル犯罪ノ推移ト併セ考慮致シマスルトキハ、急速ニ之ガ防遏ニ關スル對策ヲ確立シ、以テ銃後ニ於ケル人的資源ノ確保ト治安ノ維持トニ資スルノ要切ナルモノガアリマス、御承知ノ如ク、刑政ニ於ケル檢察、裁判及ビ行刑ハ、孰レモ再犯防遏ニ關係ヲ有スルモノデアリマスガ、特ニ司法保護ノ機能ハ再犯防遏ニ直接重要ナル關係ヲ有スルモノデアリマス、然ルニ我ガ國ニ於ケル司法保護ノ機構ヲ見マスルニ、國家機關トシテハ、保護觀察所、少年審判所及ビ少年院ノ三者ガアルノミデアリマス、保護觀察所ハ全國ニ設置サレ、思想犯ノ保護指導ニ相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスガ、

少年保護ノ任ニ當ル少年審判所及ビ少年院ハ僅カニ四箇所ニ設置サレテ居ルニ止マリマシテ、少年保護ノ完璧ヲ期スル上ニ遺憾ノ點ガ少クナイノデアリマス、然ルニ一般犯罪者ノ保護ニ付テハ毎年ノ要保護者數十萬人ニ達スルニモ拘ラズ、之ニ關スル國家的施設ナキ爲ニ、之ニ對スル保護ハ主トシテ民間ニ於ケル保護事業經營者ノ手ニ依ッテ爲サレツ、アルノ實情デアリマシテ、其ノ負擔極メテ過重デアリマス、勢ヒ一般犯罪者ノ再犯率モ大ナルヲ免レスノデアリマス、從ツテ關係方面ヨリ屢、一般犯罪者保護ノ制度化ガ要望セラレマシテ、議員提出ニ係ル司法保護法案モ第六十四議會以來三回ニ互ツテ衆議院ニ於テ可決サレテ居ルヤウナ

次第デアリマス、司法省ト致シマシテモ、一般保護觀察法ヲ制定シ且少年法ノ保護處分ノ全國普遍化ヲ圖リ、以テ再犯防遏施設ノ整備ヲ圖リタイト考ヘテ居リマスガ、國家財政ノ現狀ニ鑑ミマシテ、取敢ズ民間ニ於ケル司法保護事業ノ整備擴充ヲ圖ルベク、本法案ヲ提出スルニ至リマシタ次第デアリマス、即チ本法案ノ目的ト致シマスル所ハ、

刑政ノ目的ノ達成ニ必要ナル司法保護事業ノ充實ヲ圖リマスル爲ニ、民間ノ司法保護事業ヲ助成、監督、指導シテ其ノ機能ヲ伸張セシメマスルト共ニ、司法保護委員會制度ノ實施ニ依ツテ更ニ之ヲ補強ショウトスルモノデアリマス、司法保護事業ニ對シマシテハ、從來政府ニ於キマシテモ其ノ重要性ニ鑑ミマシテ、之ヲ助長スルコトニ付キ考慮シ、成績優良ナルモノニ對シテハ特ニ獎勵金ヲ交付シテ之ガ發達ヲ圖ツテ來タノデアリマスガ、之ガ助成監督ノ途ハマダ制度トシテ確立セラル、ニ至ラナカッタノデアリマス、仍チ本法案ニ於キマシテハ事業ノ範圍內容ヲ明示シ、之ニ對シ、政府ハ獎勵金ヲ交付シ得ルコトトナシ、又地方稅ノ免除ニ關スル規定ヲ設ケテ助成ノ方法ヲ法制上確立スルコトニ致シタノデアリマス、

指導監督ノ方法ト致シマシテハ、特ニ其ノ設立ニ付認可制ヲ採リ、監督上必要アル場合ニ於テハ、事業ニ關スル報告ヲ徴シ、實況ヲ調査シ、又事業ノ經營ニ關シ指示ヲ爲シ得ルコトト致シ、又往々弊害ヲ伴ヒ易イ寄付金募集ニ關シテハ許可制ヲ厲行スルコ

トトシ、必要ナル罰則ヲモ規定致シタノデアリマス、尙此ノ指導監督ニ付協力セシムベキ機關トシテ、司法保護事業委員會ヲ設置スルコトニ致シマシタ、斯クノ如キ助成及ビ指導監督ノ方途ニ依リマシテ、民間ニ於ケル司法保護事業ノ機構ノ整備ト、其ノ機能ノ充實トヲ期待セムトスルモノデアリマスガ、併シナガラ司法保護ノ對象トセラレベキ者ノ數ハ極メテ多數デアリマシテ、民間ノ保護事業經營者ノミヲ以テシテハ、其ノ全部ニ對スル保護ヲ竭シ得ナイ實情ニアリマスルノミナラズ、是等多數ノ要保護者ノ中ニハ、其ノ性行境遇等ニ照シ、民間ノ司法保護事業經營者ト異ナル所ノ民間有識者ノ輔導援護ニ依ッテ、之ヲ更生セシメルコトヲ適當トスルモノモ多數存スルノデアリマス、仍テ本法案ニ於キマシテハ、新ニ司法保護委員會制度ヲ創設シ、民間ノ適當ナル者ニ司法保護委員ヲ囑託シテ保護活動ヲ爲サシムルコトトシ、民間ノ司法保護事業ノ擴充強化ト相俟ッテ保護ノ機能ヲ助長スルコトト致シタノデアリマス、尙詳細ナコトハ御質問ニ應ジマシテ、政府委員カラ説明致サセマスガ、何卒十分ニ御審査下サレ、此ノ法案ノ通過ニ御盡力アラムコトヲ切望致シマス

○委員長(伯爵三荒芳德君) 只今ヨリ御質問ヲ許シマス

○政府委員(森山武市郎君) 御許ヲ得マシテ私ヨリ少シク法案ノ内容ニ付キマシテ補足的ニ御説明ヲ申上ゲタイト存ジテ居ルノデアリマス、只今提出理由書デ申上ゲマシタ通りノ理由ニ依リマシテ、司法保護事業法案ヲ提出致シマシタ次第デゴザイマスガ、更ニ詳細ニ申上ゲタイト存ズルノデアリマス、最近我が國ニ於キマシテ、年ヲ逐ヒマシテ犯罪ノ數ガ増加ヲ致シテ居リマス、犯罪ノ増加自體ハ決シテ歡迎スベキ現象デハナイコトハ勿論デアリマスガ、是ハ觀察ノ如何ニ依リマシテ、或國ガ可ナリ積極的ナ躍進ヲ遂ゲテ行ク場合ニ於キマシテハ、犯罪ノ數ハトモスレバ増加ノ傾向ヲ辿リ勝チデゴザイマシテ、例ヘバ「アメリカ」ト云ヒ「ドイツ」ト云ヒ相當活動シテ居ル國柄ニ於キマシテハ、犯罪ノ數ハ總體的ニ見マシテ相當増加ノ傾向ヲ辿ッテ居リマス、之ニ反シマシテ必ズシモ活動的デナイ國家、例ヘバ「デンマーク」、「スエーデン」、「ノルウェー」、ア、云ツヤウナ國柄ヲ見マスルト、餘リ犯罪ハ増加シテ居ラナイヤウデアリマス、併シナガラ犯罪ノ増加ハ姑ク措キマシテ、之ヲ再犯ノ増加ト云フ點カラ見デ見マ

スルト、是ハ決シテ歡迎スベキ所デナク誠ニ憂慮ニ堪ヘナイモノガアルノデゴザイマシテ、再犯ハ私共ト致シマシテ、有ユラル方法ヲ講ジマシテ、其ノ減少ヲ圖ラネバナラスト存ジテ居ル次第デゴザイマス、釋放者ノ中ニハ色々ゴザイマスガ、其ノ再犯ノ度合ヲ見ルノニ最モ適切ナルモノト致シマシテハ、刑務所ヨリノ釋放者ノ再犯狀況デゴザイマス、現在刑務所ニ於キマシテハ五萬人以上ノ在監者ガ居ルノデゴザイマスガ、其ノ中ノ約五十「パーセント」乃至六十「パーセント」ハ再犯者デゴザイマス、二度三度或ハ五度ト犯罪ヲ重ネテ來マシタ者ガ五割乃至六割ヲ占メテ居ルノデゴザイマス、而モ是等ノ再犯者ハ前刑ヲ終ヘテドノ程度ノ期間内ニ於テ再ビ犯罪ヲ犯シテ居ルノデアルカト云フコトヲ見マスルト、其ノ數ノ約四十九「パーセント」ハ刑務所ヲ出マシテ約半箇年内、アトノ半箇年内ニ於テ、更ニ十五「パーセント」、要シマスルニ刑務所ヲ出マシテ、一箇年内ニ約六十四「パーセント」ノ者ガ再犯ニ陥ッテ居ルヤウナ狀況デゴザイマス、ソレナラバ何ガ故ニ刑ノ執行ヲ受ケタ者ガ此ノ大多數率ノ再犯ヲ犯シテ居ルノデアルカ、其ノ原因ヲ考ヘテ見マスルト、檢察ノ段階ニ於キマシテ、

或ハ裁判ノ段階ニ於キマシテ、著シイ失當ガアルトハ私共ハ考ヘナイノデアリマス、又行刑ノ段階ニ於キマシテモ、御承知ノ通り、我が國ノ行刑制度ハ、世界ニ於キマシテモ殆ド一二ト言ッテ置イ程度ニ進歩發達シテ居ルノデアリマスルガ、サウ云ツヤウナ行刑ヲ受ケ刑務所ヲ出ル其ノ當時ニ於キマシテハ、其ノ多數ノ者ガ再ビ犯罪ヲ繰返ナサイト云フ決心ノ下ニ社會ニ出ルノデゴザイマスルガ、而モ尙今申上ゲルヤウナ狀況デゴザイマシテ、一年内ニ約六十四「パーセント」近クノ者ガ再犯ニ陥ッテ居ル次第デゴザイマス、是ハ結局スル處、最後ノ段階デゴザイマスル保護機構ニ於テ著シク缺陷ガアルノデハナカラウカ、斯ウ私共ハ考ヘテ居リマス、サウ致シマスレバ、此ノ缺陷ヲ是正致シマシテ、サウシテ再犯ヲ防止スルト云フコトハ、現下刑政ノ段階ニ於キマシテ、缺クベカラザルコトデハナカラウカト斯ウ考ヘテ居ル次第デゴザイマス、殊ニ御承知ノ如ク、長期戦下ニ於キマシテハ、戰爭勃發ノ直後ニ於テこそ、色々ナ諸事情、例ヘバ國民ノ一般的ナ緊張ト申シマスルカ、或ハ壯年者ノ出征ト申シマスルカ、或ハ檢察機能ノ脆弱化ト申シマスルカ、或ハ檢察機能ノ同胞的惻隱ノ情ニ依ル檢舉ノ手心ト

申シマスルカ、サウ云ツタヤウナ色々ナ諸事情ニ依リマシテ、犯罪ノ數ハ實際ニ比シマシテ、可ナリ減少ハシテ行クノデゴザイマスルガ、戰爭ガ三年ト續キ五年トナリマスレバ、此ノ犯罪ノ數ガ又殖エテ參リマシテ、殊ニ長期戰下、其ノ長期戰ノ直後ニ於キマシテハ、著シク犯罪ガ増加スルト云フコトハ、是ハ皆御承知ノ通り、世界大戰ノ際ノ交戰各國ノ實例ニ徴シテ明カナ所デゴザイマス、サウ云ツタヤウナ諸事情ヲ考ヘマシテ、此ノ際ニ再犯防遏ノ機構ヲ完備シタイ、斯ウ存ジテ居ル次第デゴザイマス、固ヨリ我が國ノ再犯防遏施設ト致シマシテハ、一面ニ於テハ國家ガ乗出シテ居リマスルモノト、或ハ他面ニ於キマシテハ民間ノ人々ノ手ニ委シテ居ルモノト、二ツニ大別スルコトガ出來ルノデゴザイマス、國營ト致シマシテハ、昭和十一年法律第二十九號ニ依リマシテ、思想犯保護觀察法ガ制定サレマシテ、全國ニ七十二箇所ノ保護觀察所ガ出來マシテ、是ハ思想犯防遏上相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルノデゴザイマス、又少年ニ付キマシテハ、少年審判所及少年院ガアリマスルケレドモ、是ハ僅カニ全國四箇所ニ止ッテ居リマスルノデ、是ハ可ナリ遺憾ノコトデゴザイマス、一日モ早く少年法ノ

保護處分ノ全國普遍化ヲ圖ラナケレバナラスト存ジテ居ル次第デゴザイマス、併シナガラ釋放者ノ大部分、犯罪再犯者ノ大部分ハ、思想犯及少年以外ノ一般犯罪デゴザイマス、處ガ此ノ分野ニ於キマシテハ、サウ云ツタヤウナ國家ノ機關ガゴザイマセヌノデ、總テガ民間ノ保護團體ノ手ニ委ネラレテ居ル實情デゴザイマス、只今我が國ニ於キマシテ約千二百三十ノ司法保護團體ガゴザイマスルガ、是ハ多クハ民間篤志家ノ手ニ成ッテ居リマシテ、ナカ／＼此ノ經營ハ骨ガ折レルノデゴザイマス、而モ最近ニ於キマシテハ、釋放者即チ保護ヲシナケレバナラナイ者ノ數ガドシ／＼増加致シテ居リマスルシ、密附金ノ集リハ惡ウゴザイマシ、物價ハ騰ッテ參リマスルシ、保護團體ノ持ッテ居ル此ノ基金ニ對スル金利ハ逐年低下致シテ來テ居リマスモノデゴザイマスルカラ、此ノ保護團體ノ經營ハ非常ニ困難ノ度ヲ加ヘテ來テ居ルノデゴザイマス、此ノ際國家ガ此ノ保護團體ニ對シマシテ、助成、指導、監督ヲ與ヘマシテ、其ノ機能ヲ發揮スルト云フコトニ努メテヤラナケレバ、是等ノ保護團體ハ或ハ破産ノ現象ヲ呈スルノデハナカラウカ、斯ウ考ヘル次第デゴザイマス、ソレカラ一箇年數十萬ニ

達スル釋放者ヲ僅カ千二百ノ司法保護團體ノ手ニ委ネテ置クト云フコトモ、是モ極メテ困難ナコトデゴザイマスルカラ、民間ノ各方面ノ有力者ヲ迎ヘマシテ、旁、司法保護員ヲ御願ヒ致シ、サウシテ相共ニ犯罪防遏ニ努メテ戴キタイ、斯ウ云フ理由ニ依リマシテ、司法保護法案ヲ提出致シタ次第デゴザイマス、尙法案ノ内容ニ付キマシテ、極メテ其ノ概要ダケヲ説明サシテ戴キタイト思ヒマス、法案ノ第一條ハ、司法保護事業ノ意義竝ニ其ノ範圍ヲ規定シタ條文デゴザイマス、第一條ニ依リマスルト、司法保護事業ト申シマスルノハ、左ニ掲グル者ノ保護ヲ爲ス事業竝ニ右事業ニ關シ指導聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業、此ノ二通りノ種類ヲ認メテアルノデゴザイマス、即チ第一ノ種類ハ直接ニ保護ニ當ル事業デゴザイマシテ、第二ハ直接ニハ保護ニハ當リマセヌガ、其ノ事業ニ關シ指導聯絡又ハ助成ヲ爲ス事業デゴザイマス、直接ニ保護ヲ爲ス對象ハ第一號乃至第七號迄ニ掲ゲテアリマスル通り、第一ハ所謂起訴猶豫ノ處分ヲ受ケタル者デゴザイマス、第二號ハ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者デゴザイマス、第三ハ刑ノ執行停止中ノ者、第四ハ刑ノ執行ノ免除ヲ得タル者、第五ハ期間満了ノ前ニ於

キマシテ、假ニ刑務所ヨリ釋放サレテ居ル所謂假出獄中ノ者、第六ハ刑ノ執行ヲ終リタル者、第七ハ少年法ニ依リマシテ少年審判所ガ色々ノ保護處分ヲ致シマスガ、此ノ保護處分ヲ受ケタル者、大體司法保護事業ノ對象トシマシテハ、此ノ七ツノ種類ヲ認メテアルノデゴザイマス、第二條ハ司法保護事業ノ指導精神乃至其ノ目的ヲ明カニシタ條文デゴザイマス、第二條ニ依リマスルト、前條ノ保護ニ於テハ、本人ガ更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ、之ヲシテ進ンデ臣民ノ本分ヲ恪守セシムル爲、性格ノ陶冶、生業ノ助成其ノ他適當ノ處置ヲ以テ本人ヲ輔導スルモノトス、即チ司法保護事業ノ目的ト致シマシテハ、最小限度ニ於キマシテ再犯危險ノ防止、即チ是ハ消極的ノ目的ト言ヘルノデハナカラウト思ヒマス、併シナガラ此ノ消極的ノ目的ヲ満足スルコトナク、更ニ進ンデ本人ヲシテ國家有用ノ材トラシムル、冀クハ國家有用ノ人材トラシムル、斯ウ云フ謂ハバ積極的ノ目的ヲモ有スルコトヲ此處デ掲ゲタ次第デゴザイマス、第二條ノ第二項ニ於キマシテ、保護ノ種類及ビ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シタノデゴザイマスルガ御承知ノ如ク保護ノ種類ト方法ハ極メテ大切ナ事項デアリマスル爲

ニ、之ニ付キマシテハ相當詳細ナ命令、是ハ恐ラク其ノ形式ハ司法省令ニナルト思ヒマスルガ、命令デ規定シタイト存ジテ居ル次第デゴザイマス、保護ノ種類ト致シマシテハ、一般的ノ區別トシマシテハ、少年保護、思想犯保護、一般釋放者保護ト分類致シマシテ、更ニ加フルニ對象者ニ依ル細別ト致シマシテハ、初犯保護、或ハ再犯保護、婦人保護、老癯者保護、或ハ精神低格者保護、或ハ内地ニ居リマスル半島出身者ノ保護、或ハ起訴猶豫者ノ保護デアリマスルカ、刑ノ執行猶豫者ノ保護デアリマスルカ、サウ云フヤウナコトニ付テ詳シク規定致シタイト思ッテ居ル次第デアリマス、尙保護ノ方法ト致シマシテハ、現在一時保護、直接保護、間接保護ト區別ハ致シテ居ルノデゴザイマスルガ、更ニ實質的ニ入リマシテハ或ハ生業助成デアリマスルカ、或ハ融和、調停デアリマスルカ、或ハ補導、援護デアリマスルカ、サウ云ツクヤウナコトニ付キマシテ劃切的ナル規定ヲ置キタイト考ヘテ居リマス、第三條ハ「司法保護事業ヲ經營セントスル者ハ主務大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ」ト斯ウナッテ居リマシテ、司法保護事業經營ニ付テ認可主義ヲ採用スル旨ヲ明ニシテ居ルノデアリ

マス、此ノ點ニ付キマシテ司法保護事業ノヤウナ、所謂清ラカナル事業ニ付テ、是ハ單ニ届出主義ヲ採ッテ行ツク方ガ宜イノデハナカラウカ、ト斯ウ云ツクヤウナ議論モ想像サレルノデゴザイマスガ、何ヲ申シマシテモ、司法保護事業ノ對象トナルベキ相手方ハ可ナリ複雑ナ性格ヲ持ッテ居ルノデアリマシテ、其ノ取扱ハ極メテ難澁デアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ、相當専門的ノ人ガ必要デアリマスシ、尙其ノ施設モ相當完備シタルコトヲ必要トスルト云フ建前ヨリ致シマシテ、經營並ニソレノ廢止ニ付キマシテハ主務大臣タル司法大臣ノ認可ヲ必要トスルト云フ建前ヲ採ッテ次第デゴザイマス、第四條ハ、司法保護事業ニ對スル監督ノ内容ヲ規定シテ居ルノデゴザイマス、即チ監督ノ内容ハ必要アル場合ニ於キマシテハ報告ヲ徵スルコト、實況ヲ調査スルコト、事業ノ經營ニ關シ指示ヲ爲スコト、大體此ノ法律ノ文面ニ於キマシテハ三ツノ方法ヲ豫想致シマシテ、サウシテ保護團體ノ經營ノ合理化ヲ期待致シテ居ルノデゴザイマス、第五條ハ、司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シマシテ保護事業ニ關スル事項ノ調査ヲ委囑シ得ル旨ノ規定ヲ置イタノデゴザイマシテ、是ハ別段御説明ヲ申上ゲル事項モ

ナイヤウデゴザイマス、第六條ハ、寄附金ノ募集ニ付テ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ必要トスルコトニ付テ寄附金募集ニ付テ是ハ許可規定デゴザイマス、御承知ノ如ク司法保護事業ヲ經營スル場合ニ於キマシテハ、何ト致シマシテモ相當ノ金ガ掛ルノデゴザイマシテ、此ノ金ヲ只今ノヤウナ狀態ニ於テ國家ガ獎勵費ヲ出シテ居ルダケデハ到庭其ノ何分ノ一ヲモ充タスト云フコトハ出來難イ狀況デゴザイマスルカラ、保護事業家ハ勢ヒ一般社會ニ對シテ寄附金ヲ公ニ募集スル、斯ウ云フコトニナルノデゴザイマスガ、何ヲ申シマシテモ寄附金ノ募集ニ付キマシテハ、可ナリ危險ヲ伴フノデゴザイマシテ、萬々一擬裝的ノ保護事業家ナドガ現レマシテ、名前ヲ司法保護事業ノ經營ニ藉リテ變ナ寄附金ノ募集ヲスル、斯ウ云フヤウナコトニナリマスレバ、延イテハ一般司法保護事業ノ經營ノ上ニ鈔カラザル惡影響ヲ及ス虞ガアルノデゴザイマスルカラ、此ノ點ニ付キマシテハ相當嚴重ニ監督スル必要ガアルノデハナカラウカ、サウ云フ建前ノ下ニ於キマシテ、此ノ寄附金募集ニ付テ許可制ヲ採リマシテ、更ニ其ノ募集ニ付テノ報告ヲ爲スベキコトヲ規定致シマシテ、更ニ寄附金並ニ之ニ依リテ得タル財

産ノ處分ニ付キマシテ主務大臣ノ許可ヲ必要トスルト云フ規定ヲ置イタ次第デゴザイマス、第七條ハ、事業經營者ガ本法ニ違反シタ場合、公益ヲ害シ若シクハ害スル虞アル場合、又ハ著シク不當ノ行爲ガアル場合ニ付キマシテハ認可ノ取消、或場合ニ付キマシテハ事業經營ノ制限、是等ノ處分ヲ爲シ得ル旨ヲ規定致シタノデゴザイマス、無論斯ウ云ツクヤウナ處分ヲ爲スコトハ司法保護事業ノ經營者ニ取ッテハ可ナリ痛手デゴザイマシテ、其ノ適切妥當ヲ期スル必要ノアルコトハ固ヨリノコトデゴザイマスルカラ、斯ウ云フ處分ヲ爲ス場合ニ於キマシテハ、民間ノ實務家ヲ加ヘマシタ所謂司法保護事業委員會ノ意見ヲ聽クコトニ依ッテ其ノ處理ノ適切妥當ヲ期待シテ居ル次第デゴザイマス、第八條及第九條ハ所謂積極的ノ獎勵ノ意味ヲ有スル規定デゴザイマス、即チ第八條ハ、獎勵金ノ交付ニ關スル規定デゴザイマシテ、「政府ハ司法保護事業ヲ經營スル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付スルコトヲ得」ト斯ウ云フ建前ニ致シテゴザイマス、デ若シ此ノ法案ガ通過致シマシタ曉ニ於ケル獎勵金ノ高ハ大體ニ於キマシテ四十三四萬圓ノ程度ニナルノデゴザイマスガ、段々茲三四年來獎勵金ガ

増加シテ参リマシテ、四年前ニ於キマシテハ僅ニ八萬圓チヨット越シテ居ッタノデゴザイマスルガ、昨年度ニ於キマシテハ經營費ノ項目トシテ二十三萬圓ヲ超過スルコトニナリマシテ、今回又大藏當局ノ諒解ヲ得マシテ此ノ獎勵ガ四十三萬圓ヲ超過スルコトトナッタ次第デゴザイマスルガ、固ヨリ千二百三十餘ニ達スル司法保護事業團體ニ對シマシテ四十數萬圓ノ獎勵金ヲ交付スルダケデハ、極端ニ申上ゲマスレバ大シタ足シニハナラスノデハナカラウカト云フコトト思フノデゴザイマスルケレドモ、今後機會アル毎ニ大藏當局トモ折衝致シマシテ、此ノ獎勵金ノ増加ヲ圖ツテ行キタイト存ジテ居ル次第デゴザイマス、第九條ハ、地方税ノ免除ニ關スル規定デゴザイマス、條文ノ示ス通りデゴザイマシテ、「道府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ司法保護事業ノ用ニ供スル土地建物ニ對シテ租税其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ズ但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ、」斯ウ云フコトニナツテ居ルノデゴザイマス、以上ガ大體司法保護事業經營者ニ對スル取扱ノ規定デゴザイマス、第十條ハ、司法保護委員ニ關スル規定デゴザイマシテ、司法保護ノ事ニ從フ民間ノ事ト致シマシテ經營的、專門

的ニ從ツテ行ク者ガ所謂司法保護團體、言葉ヲ換ヘマスレバ、本法ノ所謂司法保護事業ヲ經營スル者ニナルノデゴザイマスガ、専門的デハナイガ、民間ノ有力者ニ於キマシテ、或ハ精神ノ指導、或ハ本人ト家族トノ融和、調停、或ハ職業ノ周旋、斯ウ云フヤウナコトニ付キマシテ力添ヘラシテ戴クト云フコトニナリマスレバ、是ハ専門的ノ司法保護團體ノ機能ノ不足ヲ補フノミナラズ、總テノ點ニ於テ便利ガアルノデゴザイマス、其ノ意味ニ於キマシテ第十條ニ司法保護委員ニ關スル規定ヲ置イタ次第デゴザイマス、是ハ廣ク保護ノ網ヲ全國的ニ張りマシテ、出來マスコトデアリマスレバ、全國ノ各市町村、ドンナ小サナ村ニ於キマシテモ、尠クトモ一名ノ司法保護委員ハ置キタイ、斯ウ云フ考デゴザイマスルカラ、此ノ數ハ一萬人以上、大體ニ於キマシテ一萬數千名ニハ最小限度デナルダラウト思ヒマス、尙此ノ司法保護委員ニ關スル規定ハ、勅令ヲ以テ定ムルト云フコトニナツテ居ルノデゴザイマス、尙第十一條、第十二條及第十三條、是ハ罰則ニ關スル規定デゴザイマス、實ハ司法保護事業ノ如キ所謂清業ニ從フ者ニ對シマシテ、罰金ヲ以テ臨ムト云フコトニ付キマシテハ、色々ナ觀點ヨリ

致シマシテ、考ヘサセラルベキ問題ガ多イノデゴザイマス、併シナガラ又考ヘヤウニニ依リマシテハ、サウ云ツタヤウナ清ラカナ、美シイ、且犧牲的ノ事業デアラガ故ニ、名ヲ保護事業ニ藉リマシテ、サウシテ不正不當ノコトヲ爲ス者ガ出來マスレバ、ソレハ多數ノ司法保護團體ニ害ヲ及スノミナラズ、司法保護事業ノ正常ナル發展ヲ阻害スルト云フ結果ニモナル虞ガアルノデゴザイマスカラ、是ハ社會事業法ノ規定ヲモ斟酌致シマシテ、茲ニ罰則ニ關スル規定ヲ置イタ次第デゴザイマス、併シナガラサウ云フ趣旨デゴザイマスルカラ、罰則ヲ罰金ヲ以テ臨ム場合ハ、極メテ其ノ範圍ヲ限定致シマシテ、兎モ角寄附金ニ關シテ正當ナルコトヲ爲サナカッタ場合、ソレカラ第七條ノ規定ニ依ツテ認可ノ取消又ハ事業經營ノ制限ヲ爲シタルニ拘ラズ、之ニ違反シテ保護事業ヲ爲シタ場合、此ノ著シキ場合ニ限ツテ、此ノ罰金ヲ以テ臨ムト云フコトニシタノデゴザイマシテ、固ヨリ其ノ運用ニ於キマシテハ、司法保護事業ノ本質ヲ斟酌致シマシテ、其ノ適切妥當ヲ期スル積リデゴザイマス、第十二條、第十三條ハ、御承知ノ如ク所謂轉嫁規定デゴザイマシテ、此ノ轉嫁規定モ、考ヘヤウニ依リマスレバ、斯クノ如キ司法

保護事業ノ場合ニ於テ、斯ウ云ツタヤウナ轉嫁規定ヲ置ク必要ガナイデハナイカ、營利ヲ中心トスル事業ノ場合ナラバ格別、司法保護事業ニ轉嫁規定ヲ置クノモ如何デアラウカ、斯ウ云フヤウナ御議論モアルカト考ヘルノデゴザイマスルガ、是ハ行政犯ニ於ケル所謂例文見タヤウナモノデゴザイマシテ、旁々社會事業法ニモ斯ウ云フ轉嫁規定ガ置イテアル關係上、此處ニ置イタ次第デゴザイマス、尙此ノ罰則ノ御説明ヲ申上ゲマシタ序ヲ以チマシテ、補足サシテ戴キタイト思ヒマスルコトハ、以上ノ條文即チ第一條乃至第十三條ノ規定ヲ御覽下サイマシテ、此ノ司法保護事業法案ハ寧ろ監督的ノ色彩ガ極メテ濃厚デハナイカ、助成シ指導スルト云フ所謂司法保護事業ノ正當ナル發達ヲ促スニ足ル規定ガ少イノデハナイカ、斯ウ云ツタヤウナ御議論モ御生ジニナルノデハナイカト云フコトヲ考ヘルノデゴザイマス、固ヨリ此ノ法案ノ形ダケヲ見マスルト、實ハサウ云ツタヤウナ監督的色彩ガ相當濃厚ニ出テ居ルト私共考ヘテ居ルノデゴザイマスルガ、御承知ノ如ク監督的ノ事項ハ主トシテ立法事項トナルノデゴザイマシテ、之ニ反シテ指導シ助成スルト云フ方面ハ必ズシモ法律ノ規程ヲ俟タナイデモ行政處分ノ手心

ヲ以テ出來ルコトデアルノデアリマスカラ、此ノ法案ガ幸ニ御協賛ヲ願ヘマシテ、實施セラ

カラ司法保護事業法案ニ付テ御提出ノ理由竝ニ其ノ内容ニ付テ御説明ヲ伺ヒマシタ

テ目下慎重ニ御審議ヲ煩ハシツ、アルノデアリマス、右委員會ニ於テ成案ヲ得ラレマ

斯カル事務ヲ行フニ付テ適當ナル機關ヲ有セザル關係上、勢ヒ大審院ノ部長等ヲ煩ハ

或ハ施行規則デアリマスルカ、省令ノ規定ノ内容ト云フモノニ付キマシテ慎重ニ有ラユ

議院カラノ提出デゴザイマスカラ、一應政府ノ御意見ヲ伺ツテ置キタイト存ジマス

ニ擧イ摘シダ大略ヲ政府ノ意見ヲ申上ゲタ

ハサル、コトナク、本來ノ使命タル法律ノ解釋、竝ニ裁判事務ニノミ專念セシムルヲ

ガ司法保護事業ノ躍進ニ資スベキモノデアツテ、司法保護團體ノ助成指導ヲ主眼トシ

マサル裁判所構成法改正案及ビ檢察廳法案ニ對スル政府ノ意ノ在ル所ヲ一應御説明申

上ゲタイト思ヒマス、現行司法制度中刷新改善ヲ加フルコトヲ要スルモノアリマス

コトハ、政府ニ於テモ之ヲ認メテ居ル次第デゴザイマス、御承知ノヤウニ第七十一議

會ニ於キマシテ、衆議院ノ司法制度修正ニ關スル決議ノ趣旨ニ副ヒマスル爲ニ、昨年

七月朝野各方面ノ權威者ニ委員ヲ委囑致シマシテ、司法制度調査委員會ヲ設置致シタ

マシテ、且之ヲ實現スル爲ニハ相當龐大ナル豫算モ要シマスルノデ、目下司法制度調査

委員會ニ於キマシテ慎重ニ十分檢討ヲ煩ハシテ居ル次第デゴザイマス、第二ノ問題ハ

マス、尙寄附金ニ對スル規定ニ付キマシテハ、現ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケテヤッテ居ル

モノニ付テハ別ニ改メテ許可ノ申請ヲシナイデモ宜シイト云フ、此ノ點モ附加ヘテ置

タルヤウナ狀態デゴザイマシテ、本法案ハ其ノ内容ニ於テ現行制度ヲ根本的ニ改革

セムトスル重大ナル意義アルモノデゴザイマスカラ、右委員會ニ於テ審議ヲ願フコト

○委員長(伯耆三荒芳徳君) 只今政府委員

問ノ第二號ト致シマシテ、特別委員會ニ於

政監督權ヲ行使セシムルト致シマシテモ、

少シノ支障ナキガ如クニ認メラル、ノミナ

ヲ必要トスル關係モアリマスルカラ、尙十分考慮致スベキ問題トシテ研究ヲ致シテ居ル次第デアリマス、第四ノ問題ハ判事ヲ辯護士カラ採用シテハドウカト云フ問題デアリマス、此ノ問題ノ要旨ハ判事ノ任用制度ヲ改メマシテ辯護士ヨリ採用スルコトトシ、裁判ヲシテ國民ノ實生活ニ適合セシメテ以テ司法ノ尊嚴ヲ保持スベシト云フ趣旨ニアルヤウデアリマス、原則トシテ司法官候補ヨリ判檢事ヲ採用シツ、アル現行制度ヲ一擲シマシテ其ノ總テヲ辯護士中ヨリ採用セムト致シマシテモ、判檢事ノ待遇ヲ改善セザル限り、之ニ依ッテ果シテ所期ノ如ク適材ヲ得ルヤ否ヤニ付疑問ノ餘地ガアルノデゴザイマスル、ノミナラズ其ノ他ノ點ニ於キマシテモ種々慎重ナ考慮ヲ要スル問題アリト存ジテ居リマスルカラ、俄ニ之ヲ實行スルコトハ到底困難ナルモノト思料致シテ居ル次第デアリマス、第五ハ、判事ノ定年制廢止ノ件デアリマス、此ノ要旨ハ裁判ノ得失ニ鑑ミ定年制度ヲ廢シ、年齢ニ拘ラズ練達堪ナル判事ヲシテ職務ニ當ラシメ、裁判ニ對スル國民ノ信頼ヲ保持スル要アリト云フニアリマシテ、定年制ノ爲ニ有爲ノ士ヲ失フコトアルハ甚ダ遺憾トスル所デアリマスルガ、司法部内全般ノ人

事ノ刷新ノ爲ニハ現在ノ處已ムヲ得ザルモノト考ヘテ居ル次第デアリマス、前段申上ゲマシタ第二ノ諮問トシテ委員會ニ提出致シテ居リマスル問題ハ、第一、第二、第三、第四、第五ト斯ウ云フ部門ヲ分ツテ居リマシテ、第一ハ檢察ニ關スル事項、第二ハ豫審ニ關スル事項、第三ハ公判ニ關スル事項、第四ハ拘留期間ニ關スル問題、第五ハ辯護權ニ關スル問題、斯ウ云フ五部門ニ分レテ特別委員ニ於テ御調査御審議ヲ願フコトニナツテ居ル次第デアリマス、尙之ヲ細カク分類シタ項目ニ付テ申上グルコトハ却テ煩雜デアルト思ヒマスルカラ、省略致シマス、要スルニ、御承知ノ如ク、先年來司法部ニ對スル世ノ中ノ批判ガ囂々トシテ揚ガリマシタ其ノ反映ト致シマシテ、衆議院ニ於テ第七十一議會以來數回ニ互リマシテ此ノ決議案等ガ出マスル、此ノ情勢ニ鑑ミマシテ、前段申シマスル通りニ、七月此ノ調査會ヲ設置致シマシテ、司法部ノ根本ノ改革ニ付テノ成案ヲ得タイ爲ニ調査ヲ進メテ居ル次第デゴザイマス、議員提出ノ此ノ案ニ對シマシテハ、政府ト致シマシテハ只今ノ處之ニ贊成スル意ハ毛頭持ツテ居ラナイノデアリマシテ、其ノ調査會ノ成案ヲ得次第ニ著々實現ヲ期シ得ラル、モノハ次ノ議會カラデ

モ提案致シマシテ、御協賛ヲ仰グヤウニシタイト努力ヲ拂ツテ居ル次第デゴザイマス、右様ノ次第デゴザイマスルカラ、政府ニ於キマシテハ此ノ議員ノ提出ノ法案ニ對シテハ反對シテ居ル次第デアリマス、以上申上ゲマス

○委員長(伯爵二荒芳徳君) チョット速記ヲ止メテ……

(速記中止)

○委員長(伯爵二荒芳徳君) 速記ヲ始メテ……ソレデハ今日ハ此ノ程度デ散會致シマス

午後二時三十二分散會

出席者左ノ如シ

委員長	伯爵二荒 芳徳君
副委員長	男爵渡邊 修二君
委員	侯爵徳川 頼貞君
	侯爵中山 輔親君
	子爵會我 祐邦君
	子爵加藤 泰通君
	子爵米田 國臣君
	建部 遯吾君
	男爵前田 勇君
	男爵山根 健勇君
	山岡萬之助君

政府委員	司法政務次官 倉元 要一君
	司法省民事局長 大森 洪太君
	司法省刑事局長 松阪 廣政君
	司法書記官 森山武市郎君
	藤沼 庄平君
	岩田 宙造君
	田中徳兵衛君
	大澤徳太郎君

昭和十四年三月十九日印刷

昭和十四年三月二十日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局